

清水 正の

一里一尺

～自然をたずねて～ ②

日本は四季から二季の国へ
どっこい秋は生きている～さまざまなカエデ～身近に感じるように
なった「温暖化」

今までから「温暖化」や「気候変動」で大変だと言ってはいましたが、何かまだ先の話といった感じが否めませんでした。しかし昨年は違いました。メディアでもあ

りまえのように天気予報で温暖化の話を伝えます。ただ日本政府だけは未だのんびりしていてCO2削減は進まず、世界からまたしても「化石賞」を頂戴する始末です。それどころか悪のりして脱炭素ということとで原発を再稼働・増設するという節操の無さです。

京都の昨年は一月中旬まで二〇数度を記録、一昨年より一週も遅かった。こんなこともあり黄葉になるのが遅れ、今年は紅葉が見られないのではと思われました。

実際、滋賀の朽木や安曇川、南丹市日吉町の桜並木など一〇月時点ですっかり葉を落としていました。比較的气温が高く寒暖の差が少ない南部などではくすんだ緑になり、何枚かが黄色を帯びています。秋を感じるいとまもなく寒波の到来、初雪と言った感じになりました。

しかし、そのいとまの間に寒暖の差もあり、予想よりは黄紅葉が進みました。

東山トレイル（清閑寺から將軍塚）の視察会をおこなったおり、將軍塚から菊溪分岐を経て知恩院に下り円山公園の最奥部に出ました。そこに見た紅葉は息をのむほどで人も少なく、こんな場所があったのかと思いました。円山公園の下とは違い大いなる穴場でありました。また、北部の山間部を行く道沿いでは、落葉広葉樹の山という山が赤褐色・黄褐色に覆われている様が、いつになく美しかったように感じています。

クリスマスの日に大阪の阪南（和歌山との県境）に大学時代の友人を訪ねて出かけました。自動車道の車窓がビル群から山なみに変わった頃、コナラやクスギなどが

赤褐色に染まっていました。京都あたりからは一〇日間ほど遅い黄紅葉です。当たり前と言えば当たり前なのですが、気候による自然の違いを垣間見たと思います。

紅葉（紅葉）もいろいろ

秋になると紅葉の名所や紅葉の情報がたくさん流れてきます。そしてその多くは紅葉（もみじ）＝カエデ（イロハモミジ・オオモミジ）なのです。どうしてもみじと

言えばカエデとなるのでしょうか。少し考えてみたいと思います。

紅葉と書いて「もみじ」とフリガナを打つたりしますが、万葉集などでは黄葉と書いています。また平安時代などでは作（は）もみじ（コナラ、クヌギの褐色葉）が親しまれました。尾瀬などで有名な草もみじ、サクラの葉やカキの葉も美しく桜もみじ、柿もみじなどといったりします。ちよつと俳句季語集を調べてみると銀杏黄葉、漆紅葉、槭紅葉など目立つ黄



イロハモミジの葉



オオモミジの葉

紅葉の植物が並びます。楓は楓紅葉と言わず紅葉とのみ書いています。おそらく楓（イロハモ

ミジ・オオモミジ・ヤマモミジ）の紅葉は葉の表裏を問わず紅くなり、最盛期の時はどこから見ても赤一色になるので紅葉の代表として紅葉の名をほしいままにしたと言えます。実際にシラキやニシキギ、マンサクなどの紅葉を見ると楓以上の真紅です。しかし葉に厚みがあり葉裏にまで光が透過せず、両面が紅くなると言う感じではありません。こうしたこともありイロハモミジなどを紅葉（もみじ）と呼ぶようになったのではと思っています。

日本のカエデ（属）は世界でもトップクラスに種が多いです。「日本の野生植物 木本」（平凡社）によれば在来種で二七種、その他亜種・変種を入れるとまだ増えます。興味深い植物です。どちらかというと京都などの暖温帯ではなく、

中部、東北、北海道南部などの落葉広葉樹の冷温帯（ブナ・ミズナラ）に多くの種が生育しています。従って二七種全てを見るためには相当広い範囲と高度を歩かなければなりません。まだクスノハカエデとクロビイタヤの実物を見ていないので何とか見られたらなあと思っています。

京都市内の山を歩けば

一〇種のカエデ

京都市発行の「四季・彩りの森づくりだより」には「カエデの代表種イロハモミジが色付くスポットが数多い京都ですが、山に入れば、一〇種類以上ものカエデに出会うことができます。ぜひ、山の色付きにも目を向けてみましょう！」としてイロハモミジ、オオモミジ、チドリノキ、メグスリノ



メグスリノキと葉（三出複葉）（いずれも鈴鹿雨乞岳）

キ（京都府絶滅危惧）、イロハモミジ、カラコギカエデ、ヒナウチワカエデ（京都府準絶滅）、コハウチワカエデ、ハウチワカエデ、ウリハダカエデ、ウリカエデ、テツカエデ、ミツデカエデ（京都府準絶滅）、コミネカエデが掲載されています。



カラコギカエデ（静原）



コハウチワカエデ（安曇川）
（イロハモミジより裂片が多く、葉が丸味おびて見える）

形もいろいろなカエデ

ヒナウチワカエデはコハウチワカエデに極似しており見分けが付きにくいですが花背あたりではよく見かけます。またメグスリノキ



テツカエデの葉と翼果(5~6cm)



ヒナウチツカエデ(花脊)…裂片の粗れ込みが深い



ウリハダカエデ(朽木)



ミツデカエデ(花脊)



チドリノキ(花脊)

の紅葉はほんのりと濃いピンクの色合いになり、愛らしい感じです。楕円形の小葉が三つ付く複葉です。普通のカエデのイメージとは違い

ます。変わった名前は、この木を煎じて洗眼薬などに使ったからだと言われています。同じく三枚の小葉からなり、小葉には大きな鋸

歯があるミツデカエデ。貴船や花脊で見かけましたが、花脊のものは土砂崩れで根返り状態となり、それを伐採されていました。何らかの処置をこうじる

必要性があります。チドリノキというのも全く私たちの抱くカエデのイメージからはほど遠く、カバノキ科のクマシデとそっくりです。一度機会があれば是非見ていただきカエデとはなんだろうと考える機会にしていたきたいです。とても大きな木になるテツカエデ、実も特大です。私が初めて出会ったのは箱館山の裏を走る酒波林道です。何とてっかい葉。これが第一印象。次に他のカエ

デの四〜五倍もあろうかという実です。葉はウリハダカエデとよく似ています。図鑑では葉柄に溝がないと書いてあり、その通りでした。しかし何度も見ていると葉の様子全然違います。ツツカエデは葉の表面に細かなしわがありざらついた感じですが、図鑑の細かな解説で区分点を知るのもいいですが、ざっと見たイメージや触った感じ、細かな観察眼という五感を信じて見わけると言う事の大事さを感じます。

ハウチワカエデは天狗の団扇

ウチワの付くカエデが三つあります。いずれも裂片の数が多くイロハモミジなどから比べると丸い感じがします。コヤヒナが付くのは小さいからです。ハウチワカエデは何もつかないので大きいです。

大きいものは掌ほどもあります。そして葉柄が葉の長さの半分かそれ以下という特徴があります。葉柄を持って仰ぐとイロハモミジのように長いとへなへなして団扇になります。短くて初めてしつかり風を送れるのです。鞍馬の天狗の団扇と同じような形をしています。貴船や鞍馬にもハウチワカエデがありますから見比べられては如何でしょうか。このハウチワカエデにそっくりなのがオオイタヤマゲツです。素敵な名前ですね。これはハウチワカエデと違い葉柄が長く、葉柄に毛がありません。この名にあこがれて鈴鹿山脈の御池岳の純林を見に山を登ったことが思い出されます。ハウチワカエデにはもう一つ見どころがあります。他のカエデと違って花が大きいく真紅だと言うことです。私は初

めてそれを見たのはカタクリなど早春の花を見に出かけた赤坂山の谷筋で、思わず何枚かの写真を撮ったのを覚えていました。

ウリカエデとウリハダカエデ。これもよく似た名です。どちらも樹肌が緑で、瓜のような模様が入ります。葉の大きさが違うので二つの違いはわかりやすいです。ただウリカエデの葉は切れ込みがあつたりなかったり、様々なタイプがあり変化に富みます。葉だけでウリカエデと断定せずに全体の状況を見ながらの判断が必要です。若い実はしばしば赤く、取り集めてビンなどに入れると実にきれいな飾りになります。

変異にとんだイタヤカエデ

イタヤカエデはカエデ類の中でも高木になる部類です。同時に変

種や亜種の多いのも特徴です。また変種や亜種も含めて葉縁にギザギザ（鋸歯）がありません。山間

の谷や谷斜面に大きいイタヤカエデを見つけると覚えておくと良いと言われたことがあります。それは横に枝が張りいつぱいの葉を付けて、まるで大屋根のようになることから雨宿りできるためだとい

います。またこれがイタヤ（板屋）の名前の由来だという説もあります。京都近郊で見るカエデは概ね以上となりますが、日本海側、東海地方（愛知・岐阜・三重）、北海道・東北、琉球（常緑）、



ハウチワカエデ（百里が岳）と花（赤坂山）



左：オオイタヤメイゲツの純林 右：葉（御池岳）

います。またこれがイタヤ（板屋）の名前の由来だという説もあります。京都近郊で見るカエ

デは概ね以上となりますが、日本海側、東海地方（愛知・岐阜・三重）、北海道・東北、琉球（常緑）、一定の標高以上に限られ生育する種などもあります。カエデ探訪はまだまだ興味がつきません。そして全種類自生種を見るためには今しばらく時間がかかるようです。カエデの生態や珍しい種についてはまたの機会にお話ししたいと思います。カエデは紅葉だけではなく新緑も美しい木です。最近「青紅葉」という変な言葉が流行っています。青ければ紅葉じゃないじゃん。観光のための呼び込みのキャッチコピーとして作られたものでしょう。そんなこと言わずとも新緑でいいじゃないかと、天邪鬼なわたしは思っています。今年は一斉に葉を聞く春のカエデを見に出かけましょう。